

オーガスチンの まなざし



主 教 小 林 尚 明

『ランバス会議3』

7月24日(日)、明石聖マリア・マグダレン教会の巡回を終えて、その夜、関空から23時25分発シンガポール航空SQ623便でシンガポールを経由し、25日午後3時40分、英国ヒースロー空港に到着します。ロンドンのビクトリア駅近くで一泊し、26日、カンタベリーに入ります。(この原稿を6月末に書いています。この原稿が読まれる時、私はどこにいますでしょうか)会議は、8月8日(月)までです。

その後、31年前、留学先のチチエスター神学校のチャペルで聖婚式の司式をしていただき、私の主教按手式の説教も担当してください

つたジョン・ハインド主教様ご夫妻を訪問します。また、堅信式の時にプレゼントしますコンファメーション・キャンドルを、いつものようにウエストミンスター寺院のそばの本屋さんで買おうと思います。(インターネットで買えますが。)そして、ロンドンに滞在すればいつも訪れる聖パウロ大聖堂にあるハントの「世の光」の絵の前で、しばらく黙想することも楽しみです。16日午後9時35分、関空に帰ってきます。

小南晃神戸伝道区長のご配慮で、伝道区行事として、9月10日(土)午後2時から、聖ミカエル大聖堂で、ランバス会議の報告会が行われます。コロナ禍で、入れる人数は80人と聞いています。しかしオンライン配信も予定して下さっています。

新任主教研修でカンタベリーを訪れて以来、3年ぶりです。恵まれた時となりますようにお祈り下されば幸いです。(神戸教区主教)



宣教協議会って

なんですか? その2

2012年宣教協議会へ

2012年の宣教協議会は9月14日から17日、静岡県浜名湖畔の研修施設「カリアック」を会場に、3つの目的をもって開かれました。

- ①教会の直面する現状を分かち合い、具体的な宣教ビジョンを構築すること。
- ②日本の社会における教会の使命・宣教について再認識し、具体的な方策を検討すること。
- ③世界に対し、1995年の戦責告白を踏まえ、日本聖公会が「平和の器」として用いられるため。

2010年にはプレ宣教協議会が開かれました。「宣教

する共同体のありようを求めて」をテーマに2012年への準備が進められている中、2011年3月に東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所爆発事故が起こります。大きな犠牲と被害を目の当たりにして、宣教や教会のことは、もはやこの災害によってもたらされた事態・現実とは無関係に考えることはできないと思います。

「いのち、尊厳限りないもの、宣教する共同体のありようを求めて」
宣教協議会の初日、ベリス・メルセス宣教修女会の清水靖子シスターによる特別講演を通して、福島原発事故の現実

に、キリスト者としての生き方をどう選択するのが問われ

れました。また「いっしょに歩こう! プロジェクト」の報告では、現地の人々の悲しみや苦悩の傍に共にたたずむ教会、その只中におられる主イエスの姿が示されました。

二日目、西原廉太司祭(当時)が基調講演を行い、日本聖公会の宣教を考える多様な宣教ビジョンが資料とともに提供されました。笹森田鶴司祭(当時)によるバイブルシェアリングでは多様さを抱えた被造物人間への使命について分かち合われました。

参加者はこれからの教会のビジョンを語り合い、最後に『日本聖公会〈宣教・牧会の十年〉提言』にまとめられたのです。

それぞれの場で歩んできた私たちの〈宣教・牧会〉を振り返り、新たに向かうために。次の宣教協議会は来年11月に開かれます。

(文責: 福澤眞紀子)